梅雨晴や雲切々に星まばら
紫陽花や線香くさき寺の門
植える田や晴より雨の賑々し
虹消へる雨に涼しき田圃かな
五月雨や屆く封書の糊はなれ
母衣幟や畢なき夢にうかさるゝ
納涼舟ハンカチふりし人懋し
田五作の顔だけ黑き浴衣かな
髭はやす歸省の兄の浴衣かな

短歌募集

▲課題　隨意
〆切　八月二十日限り
▲發表　本誌上
▲賞品　三光に粗景を呈す
▲撰評　みどり短歌會
▲投稿　用紙隨意、字体鮮明、左記の處宛に送らるべし
伊勢國河藝郡稻生村
みどり短歌會

平和

眞宮起雲

幸なれや姫か優手に活けられて神のみまへに匂ふ白百合
獨たどる夢路はるかの海原や山も見分かずたゞ涙あらき
終日にしをれし草木夕べ露にひとは信のいづみに活きむ
うなゐ等が唄ふ畢なき譜に和して眞白き髯の翁立ち舞ふ
エンゼルの忘れがたみか異生はゞ御相宛然神にふさはし
朝顔は露にひかり得人は子の笑まひのそれに平和を見る
あさもやに空の音こもり神苑の紅蓮白蓮にほひあふるゝ
青によし奈良のふるやに歌おもひ聞かば興ある子規かな
市に出て歌玉うらむ藝なし野のゆふへなば泣かば事足る
よろこびはあしたに開く白蓮ょ愛の光のそらに充つる時

讀書の栞

家庭教育

繪ばなし

繪を見たりかいたりするのは、子供の非常に喜ぶことであつて、殊に見る繪が自分等の平生親しく知つて居るものであると、其喜は又格別である。子供にこんな繪を與へることは、其美の情を養ふ